

1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日
3. 業務の範囲	1. 管理運営業務 (1) 受付業務 (2) センターの維持に關すること (3) その他必要な管理運営業務 2. センターの事業運営 (1) 情報の収集・提供及び広報事業 (2) 相談業務 (3) 行政と団体との中間支援組織としてのコーディネート業務 (4) 調査提言機能 (5) 行政との連携 (6) 市民や市民団体向けの交流事業、啓発事業の企画・運営(年3回以上) (7) 市民ニーズに応じたセンター運営

4. 採点表										
評価項目		細目		配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	0	目標値比(注) 105%以上:5点、105%未満〜95%:4点、95%未満〜85%:3点、85%未満:2〜0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用率の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1〜3年目の平均利用率) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出した値		【評価対象外】		
					目標値比とは、指定管理者が指定管理全期間分を指定管理者候補団体選定及び評価委員会に諮り、決定した値を実績値で割って求めた率をいう。					
		②利用人数	10	目標値比(注) 105%以上:5点、105%未満〜95%:4点、95%未満〜85%:3点、85%未満:2〜0点 ※95%未満がコロナの影響によるものと認められる場合は、一律8点とする。	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用人数の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1〜3年目の平均利用人数) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算出した値 目標値比とは、指定管理者が指定管理全期間分を指定管理者候補団体選定及び評価委員会に諮り、決定した値を実績値で割って求めた率をいう。	105%以上 5点	利用人数 R4年度 5,015人 前年比 416人 R3年度 4,599人 前年比 ▲784人 R2年度 5,383人 前年比 ▲3,491人 R1年度 8,874人 前年比 1,132人 30年度 8,763人 前年比 1,132人 29年度 7,631人 前年比 308人 28年度 7,323人 前年比 ▲550人 (前指定管理年 28・29・30・R1・R2年度) ※「①施設の利用率」を評価対象外としたため、当該項目を10点満点評価とする。	10点		
				平均値比(109.0%)=利用人数(延べ5,015人)÷上記(2)適用(4,599人:4,599÷1)						
2	(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15〜12点、仕様書に忠実:11〜9点、仕様書の一部不実施(軽微):8〜7点、仕様書の一部不実施(中程度):6〜3点、それ以下:2〜0点	1.情報の収集・提供及び広報事業 ・ほとと多治見だよりを発行(年4回6・9・12・3月)、登録団体への送付、公民館・市内施設・小中高校などに設置 ・HPでの情報発信(週2回程度更新)、ほとと多治見の活動、登録団体のイベント、補助金・助成金等の情報を提供 ・展示スペースを活用した市民活動等に関する情報発信(4回) ・チラシ、ポスターにQRコードを貼付 2.登録団体の情報更新(年1回) ・令和4年度末の登録団体数180(うち、NPO法人40)。内訳は、新規12(2) 活動停止・休止5(1) 3.行政との連携 ・くらし人権課 期毎の打ち合わせ(2回)、男女共同参画普及展示(年2回)、まちづくり活動補助金PR・相談対応・情報共有 ・環境課 ダンボールコンポストの取次販売を実施 ・企画防災課 防災フェスタについて、企画防災課と協議・連携し開催。 ・社会福祉協議会「災害ボランティア連携会議」に参加し、防災ボランティア団体との関係性構築 ・社会福祉協議会、子ども支援課 子ども食堂関係団体と交流会にて意見交換。新規活動予定者への対応マニュアルの作成、共有、窓口の一本化。 ・近隣の市民活動支援センターとの情報交換 とうしん地域活力研究所の「タイプ別コミュニケーションの取り方セミナー」を取り入れ、講座開催 4.相談・コーディネート業務 ・NPO専門相談8回(6・9・10・11・12・1・2・3月) 合計27名参加 ・市民活動活性化窓口相談99件(まちづくり活動補助金窓口相談6 件、うち1件申請) 5.調査・提言機能 ・市民活動団体の現状把握、市民活動団体の活動現場視察30件(オンライン参加も含む) ・登録団体を紹介し、マッチング成立2件。視察等から得た情報を活かし、活動提案・情報提供。 6.市民活動を育てる交流・啓発事業 ・NPOカフェ開催5回(座学4回、交流会1回) 合計57名参加 アンケートにより団体のニーズを把握し、クラウドファンディングやコミュニケーションの取り方をテーマに講座を企画・開催。また、団体からの要望を受け、団体間の活動連携をテーマに、交流会を8月にも開催。各団体の活動写真や自己紹介カードを活用し、話題が途切れないよう工夫。休憩時間や交流会終了後にも団体同士の交流が見られるなど、団体間の活動連携のきっかけづくりを行うことができた。 ・市民活動団体交流会を1月に開催、22名参加(第1部:あべこ食堂による活動紹介・第2部:グループに分け交流会)、団体間の活動連携を促進するため、時間を区切る等、全員が話そう工夫。当該交流会においても、休憩時間や交流会終了後に団体同士で自発的な交流が生まれていた。 7.市民ニーズに応じたセンター運営 ・「多治見おもちゃ病院」活動サポート(年12回145名)、ダンボールコンポスト普及支援・後継団体仲介 8.認知度向上・賑わい事業 ・おかげさまでスペースを設置し、来館者との接点を広げ、賑わいを創出 ・ほととマーケットを実施し、寄付金(40,000円)をうながっぱ寄付金へ寄付 ・HPを活用し、イベント情報等のほか、開催した講座の重要なポイント等も紹介。 ・1階ロビーでの団体情報発信(障がい者自立支援団体「クリバラボ」作品展示、NPOシニアネット多治見活動紹介)	仕様書以上 12点	1.チラシや展示スペース、HP等を活用し、市民活動団体のPRや各種助成金等の情報提供を実施し、活動活性化のきっかけづくりやほととの認知度向上に向けた取り組みが行われている。また、各種講座等に参加し情報収集を行っており、市民活動団体から相談が寄せられた際のアドバイスに役立っている。 2.登録団体が7団体増加していることから、現地視察等を通して、ほととの認知度が向上した結果であると考えられる。また、登録団体の情報更新をきっかけに、団体とのやり取りが生まれ、相談しやすい仕組みが構築できている。今後は、収集した情報をさらに活かし、団体間のマッチングをさらに促進させて欲しい。 3.市役所各課および関係機関等と連携し、市民活動団体の活動活性化のきっかけづくりを行うことができている。また、市外の市民活動支援センターとの情報交換も行っており、幅広い視点でのアドバイスや講座の企画・実施に繋げており、良い。 4.NPO専門相談においては、NPOの運営等に関する専門的な相談に応じ、団体の円滑な運営に繋がった。市民活動活性化窓口相談においては、各活動現場視察や講座等への参加から得た知見、活用できる助成金等の情報を提供し、相談者の課題解決に貢献した。また、相談者の抱える課題に応じ、適切な団体を紹介する等、団体間の活動連携のきっかけづくりを行うことができている。今後も引き続き、団体間の活動連携を通じた活動活性化の仕掛けづくりを行ってほしい。さらに、まちづくり活動補助金窓口相談においては、申請書や発表資料の作成方法について、団体の疑問点が解消されるよう、きめ細やかな対応がされていた。1件を申請に繋げており、活動資金の面から団体の活動活性化に貢献できており、大変良い。今後は、充実した資料作成サポートに加え、補助金申請に特化した講座の開催も検討してほしい。 5.視察等を通して団体との関係性を構築しているほか、得た情報を職員間で共有し、団体への活動提案や相談対応に活かしている。また、登録団体を適宜紹介するなど、活動連携に繋げており、市民活動活性化のきっかけづくりを行うことができている。今後も引き続き、団体との関係性を活かし、活動提案やマッチングを促進させて欲しい。 6.団体のニーズに応じ、各種講座や交流会を企画・開催するなど、団体のスキルアップや活動連携のきっかけづくりを行うことができている。交流会においては、団体間の交流が生まれやすいよう話題を提供するなど、開催方法に工夫が凝らされていた。その結果として、交流会中のみならず、休憩時間や終了後にも団体間の交流を生み出すことができた点は、素晴らしい。なお、今後は、既存の講座の時間を活用し、団体同士の交流時間を設けるといったことも検討してほしい。また、そこから生まれた意見を事業に反映させたり、活動連携による新たな取り組みなどが生まれたりするとさらに良い。 7.市民活動団体に活動場所を提供し、市民・団体間の接点や繋がりを生み出すことができている。また、後継団体を紹介・仲介するなど、団体の持続可能な運営に貢献できている。 8.ほととのフロアのほか、1階ロビーを活用し、団体の活動PRやほととの認知度向上に向けた取り組みが行われている。また、HPを活用し、イベント情報を掲載するだけでなく、講座の重要なポイント等も掲載し、講座に参加できなかった団体のスキルアップにも貢献している。	12点			
				(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15〜12点、内容・事業数等が例年通り:11〜9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8〜7点、内容・事業数等が例年より劣る:6〜3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る:2〜0点	1.市民活動サポート事業 ・IMA自立を考える会(障がい者支援)講演会支援 4/16(119名)。会場設定や司会・進行の方法をアドバイス。 ・「たじみのかたり部のお話 子どもが伝える多治見空襲」17/9(33名)。小中学生と団体を繋ぎ、発表方法をアドバイス。小中学生による研究発表実施。 ・「たじみのかたり部のお話 ヒロシマ原爆の話」8/6(27名) ・公民館との連携による市民活動団体支援 旭ヶ丘公民館に登録団体を紹介し、共催で事業実施。40名参加。 2.市民活動を育てる交流・啓発事業 ・「ボランティアはじめの歩講座」10/30開催(2名) NPO思いやりの糸協力のものと開催 3.スキルアップ講座 ・「チラシデザイン講座」9/8・22開催(13名)。アンケートでニーズを調査し、企画・実施。 ・「NPO会計の決算」12/8開催(3名) ・「コンバクトに伝える！プレゼン講座」2/5(4名) 4.啓発事業 ・「防災フェスタ in 地球村」9/11開催(137名) ・「広げよう〜自然とエコのまち多治見〜たじみ環境フェア2023」へのブース出展 2/19開催(224名)	期待以上 14点	1.2.登録団体からの相談に対し、活動提案を行うなど、団体の活動サポートを行うことができている。また、団体の活躍機会や、団体・市民間の繋がりを創出することができる。 3.団体からの要望をもとに講座を企画・実施しているほか、参加者の習熟度に合わせたアドバイスができる。また、活動資金獲得ノウハウに関する講座も開催しており、団体を資金面からサポートする取り組みも行うことができている。今後も引き続き、活動ノウハウのほか、資金獲得のための具体的なノウハウ獲得に向けた講座を開催し、団体のさらなるスキルアップに繋げて欲しい。 4.防災フェスタを通して、市民の防災意識向上に貢献できているほか、防災に取り組む団体やこれまで接点のなかった団体同士の交流機会を創出することができており、素晴らしい。また、たじみ環境フェアへのブース出展を通して、これまで関わりのなかった市民活動団体や企業、一般市民等との繋がりを生み出すことができおり、良い。	14点
				(1)施設管理業務の実施状況 (10点)	①清掃 ②保守・点検 ③保安・警備 ④小規模修繕 ⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する(適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。 ※駐車場は、期待以上:8点、適正(普通):6点、一部不備あり:4点、不備あり2点	受付開始前清掃を毎日実施。(新型コロナウイルス感染対策として机等を消毒。お客様使用後等についても実施。)	適正(普通) 2点	適正に実施している。
ヤマカまなびパーク保守点検計画に基づき、施設管理担当が毎日実施	適正(普通) 2点	法定点検、日常点検ともに適正に管理している。								
ヤマカまなびパーク保安警備計画に基づき、保安警備担当が毎日実施	適正(普通) 2点	適正に実施している。								
該当なし	適正(普通) 2点	該当なし								
設備備品点検および目視による天井・壁・床の安全点検を毎日実施。 危険または異常と思われる箇所が発見された場合は施設管理担当に連絡し、改善を図る。	適正(普通) 2点	日常業務の中で、随時危険箇所の点検を行っている。								
①文書管理		文書は鍵のかかる書庫にて保管、個人情報を含むものには細心の注意を払い、目的外に使用しないよう管理を徹底。必要のなくなった個人情報が含まれる文書は速やかに適切な方法により廃棄。	適正(普通) 2点		鍵付きキャビネットで文書を保存し、個人情報に最新の注意を払っている。絶えず整理整頓し、分かりやすく、見やすいファイリングを実施している。					
②環境への配慮		エコ商品の購入、内部資料印刷時は裏紙を使用、 unnecessary箇所は消灯するなどの省エネルギー活動を実施。	適正(普通) 2点	適正に実施している。						

(25点)	(2)その他管理業務の実施状況 (15点)	③バリアフリー	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	車椅子やベビーカーを使用されるお客様の妨げとならないよう椅子の整理整頓など安全な動線確保への取組みや、「心のバリアフリー」として笑顔での声掛けを実施。	適正(普通) 2点	十分なスペースを確保し、安全な動線確保を行っている。	10点	
		④備品管理		故障破損点検、備品シール貼付け、備品写真を掲載した備品台帳での管理の徹底。丁寧な使用により長く使用できるための取組みも実施。	適正(普通) 2点	備品写真を備品台帳に掲載することにより、市の備品と指定管理者の備品の管理が徹底されている。			
		⑤個人情報保護		(公財)多治見市文化振興事業団の方針に従い、取組みを実施。 ・必要な情報は適切な方法により破棄。 ・文書管理を徹底し、個人情報紛失・漏洩することがないよう厳重に管理。 ・パソコン内のハードディスク上に個人情報を保存しない。 ・マイナンバーの取り扱いについては必要に応じて講師からお預かりしたのち、開封せずに(公財)多治見市文化振興事業団本部に返す。 ・登録団体の情報公開については各団体に個別に確認の上、情報をきめ細かく管理。	適正(普通) 2点	指定管理者の基本方針に基づいて適正に管理している。			
		⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	事故なし	事故なし・対応に不備なし 0点	事故なし	0点	
3	当該施設の経営状況 (5点)	①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点	収入291,236,913円÷支出288,196,996円＝101%(学習館、図書館、子ども情報センター含む) ※上記収入のほか、多治見市より「新型コロナウイルス感染症対策指定管理者緊急支援金」として169,680円別途交付。	105%未満～100% 4点	【参考】 ①指定管理料6,697千円 ②施設独自の収支(人件費、本部経費等除く) (1)収入/文化事業収入12,700円、雑収入8,980円 (2)支出/管理運営費174,469円、文化振興事業費484,487円	4点	
4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5点、不備あり:4～1点	1.子ども食堂の支援体制改善 ・子ども食堂新規設立相談窓口が一本化されておらず、団体の情報が各機関で共有されていなかったため、窓口をぼろと多治見に一本化し、マニュアルを作成。マニュアルや団体の情報は、公民館や社会福祉協議会、子ども支援課と共有し、連携した対応ができるよう効率化実施。あべべ食堂の子ども食堂実施にあたり、各関係機関へ繋げるなど、当該システムを活用した活動支援も実施。 2.防災の課題を事業活動に反映・団体へ活躍機会提供 ・社会福祉協議会による「災害ボランティア連携会議」への参加をきっかけとし、市内外で防災普及に取り組む団体等との関係性を構築し、参加依頼。会場内には、各関係機関やボランティア団体等の協力により、防災トイレや土囊づくり体験、防災食の試食、ブルーシートを活用した雨漏り対処法など、ブース出展。防災フェスタ出展をきっかけに、防災をテーマにしたボードゲームが完成し、さらに、まちづくり活動補助金の活用に繋がった。 3.市民活動団体のニーズを把握し事業に反映 ・窓口での相談や問い合わせ、講座でのアンケート、活動現場での情報収集などを通し、各団体の要望や課題を把握。活動資金の獲得方法や広報の方法に関する要望が多かったため、クラウドファンディングやチラシ作成方法をテーマにした講座を開催。クラウドファンディング講座は、とうしん地域活力研究所の協力を得て開催。 4.市内企業や近隣のNPOセンターとの交流を図り、先進事例等を情報収集。問い合わせや相談対応の際に、団体に紹介・提案。 5.ZOOM等のオンライン会議ツールの需要の高まりを受け、利用方法を団体に情報提供 6.ボランティアや補助金情報を、掲示コーナーを活用し情報提供 7.ぼろとマーケットを実施し、4万円を寄付 8.来所者からの要望を受け、6階カウンターにてお茶・お水の販売サービスを実施	期待以上 8点	1.現状の支援体制に目向け、関係機関を巻き込みながら改善を行うことができている。また、当該システムを活用した団体の活動支援も実際に行っており、ぼろと多治見を核とした市民活動活性化を行うことができている。素晴らしい。 2.他機関や各種団体と構築した関係性や、情報交換等から得た団体のニーズを事業に反映させることができている。また、出展者には、「ねもと地域防災グループ」や「多治見発！ボードゲームフェスタまいたん！」を活用するなど、市民活動団体の活躍の場を提供することができている。大変良い。さらには、まちづくり活動補助金活用のきっかけづくりを行うなど、団体の今後の活動発展に繋げることができている。大変素晴らしい。 3～8.寄せられた意見や視察時等に発見した課題点等、利用者のニーズを把握し、事業に反映させることができている。また、民間事業者や行政機関、市内外のボランティア団体等との連携も進めており、より幅広い視点で団体への活動支援ができており、大変良い。引き続き、他機関等との連携を進め、より一層充実した支援を行ってほしい。	8点
		②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは5点とする	なし	期待以上 5点	苦情等が寄せられる前に利用団体や利用者の希望に添えるような事業展開を行っている。	5点	
	(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15～12点、適正(普通):11～9点、普通未満～物足りない:8～0点	1.とうしん地域活力研究所と連携した市民活動団体支援 ・とうしん地域活力研究所に講師を依頼し講座を実施したほか、クラウドファンディングや各種助成金の情報共有実施。また、企業と市民活動団体の連携に向け、今後のプランについて協議。 2.まちづくり活動補助金申請の支援強化 ・まちづくり活動補助金申請の支援強化 3.団体からの問い合わせに対して的確なアドバイスができるよう、各種研修に参加し、職員のスキルアップ実施 4.ぼろとスカイラウンジの整備実施。備品整理と床カーペット取替え。 5.コロナ対策の徹底。感染者0。	期待以上 13点	1.行政機関だけでなく、民間事業者との連携も進めており、より幅広い視点で団体の活動支援を行うことができている。今後も引き続き、さまざまな民間事業者と連携を強化し、市民活動活性化に繋げて欲しい。 2.まちづくり活動補助金の活用に向けた相談対応を行い、団体の活動活性化に繋げている。今後も引き続き、きめ細やかなサポートを行うほか、申請書作成に特化した講座を開催するなど、団体のさらなる活動活性化に向けた取り組みを行ってほしい。 3.各種研修や現場視察等を通して得た知見を活用し、団体へのアドバイス等が行われており、団体の活動活性化に貢献できている。 4.5.気軽に利用しやすい施設となるよう、環境整備が行われている。	13点		
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3	遅れ・不備なし	遅れ・不備なし 減点なし		0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり・減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3	指示なし	指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点	
合計			100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下	全体的な評価 1.団体間の活動連携促進 ①これまで構築してきた団体との関係性を活かし、活動提案やマッチングを実施することができている。 ②市民活動団体交流会は、開催方法に工夫を凝らし、終了後等にも団体同士の自発的な交流が生まれた。今後は、既存の講座開催にあわせ、短時間の交流会を開催するなど、さらなる活動連携に向けた取り組みを行ってほしい。また、当該交流会から生まれた意見を事業に反映させたり、活動連携による新たな事業が生まれたりするとさらに良い。 2.他機関・他団体との連携による市民活動活性化 ①これまで構築してきた各団体との関係性を活かして、防災フェスタを開催し、団体間および団体・市民間の接点を創出した。また、当該行事をきっかけとし、市民活動団体の活動活性化に繋げることができている。 ②子ども食堂の活動支援にあたり、現状の支援体制の問題点に目向け、効率化を行うことができた。団体への直接的な支援のみならず、制度面から団体の活動サポートを行うことができており、素晴らしい。 ③今後も引き続き、民間企業等との活動連携を促進させ、幅広い視点で団体支援を行ってほしい。 3.団体のスキルアップ ①団体のニーズを把握し、各種講座を企画・開催しており、団体のスキルアップに貢献することができている。今後は、まちづくり活動補助金の申請書作成に特化した講座の開催も検討して欲しい。			極めて良好	

5. 来年度の管理運営(事業執行)に対する指示事項等、評価委員会において出された意見